



UP DATE



■ 非開削技術研究発表会の開催

第32回非開削技術研究発表会を東京都品川区の品川シーズンテラスカンファレンスにて実施しました。コロナ渦をふまえ、限定した会場参加とZoomミーティングを使用したWeb参加の併用型とし、一般参加に加え、技術委員、来賓、報道を含め総勢160名が参加、13件の研究発表が行われました。

発表は「調査・技術」「推進技術」「地中掘削技術」「修繕技術」の4セッションを午前、午後に分けて実施。今年も意見交換会や、記念講演などの関連イベントは感染防止の観点から中止としました。

本内容については、本誌80ページ 講演会報告でも紹介しております。

■ 委員会活動

(1) 企画委員会

[第10回技術委員会]

第10回企画委員会を9月14日Webにより開催しました。委員会では、当協会の収支状況を報告のあと、商標登録、システム更新の必要性について検討をおこない、次回理事会を経て、同提案内容を次回総会案件として提案して

いくことを確認しました。

(2) 国際委員会

[第5回国際委員会]

第5回国際委員会を9月17日にオンラインで開催しました。委員会では、次回ISTT総会に向け、JSTTからの発言提案を確認しました。例年議題となるISTT国際会議の日本開催についても確認し、財政的にも、社会情勢が不安定なことも考慮し、今回も立候補を見送る結論となりました。また2年連続延期となっている研究発表会については、他の国際協会がWeb発表会を行っていることからISTTへWeb発表を行うことを要請していくことを確認しました。

(3) 編集委員会

第14回編集委員会を10月13日(水)16時よりオンラインで開催しました。委員会では、機関誌118号の準備状況及び座談会の準備状況について確認を行った他、海外技術情報への掲載方針について確認を行いました。

■ ISTT 総会参加

本内容については、本誌94ページ 国際非開削技術協会(ISTT) 総会報告で紹介しております。

【お詫びと訂正】

非開削技術 117号 (2021.10) 62ページ

国内イベント報告下水道展取材メモからの記事「実機のデモに集まる参観者」において、掲載写真に誤りがありました。正しい写真と記事を下記に掲載いたします。

読者の皆様ならびに関係者の皆様にご迷惑をおかけしましたことを深くお詫びいたします。

■ 実機のデモに集まる参観者

(EX・ダンビー協会)



▲ 実機のデモに集まる参観者

管きょ更生工法で、硬質塩化ビニル樹脂を材料とした小口径対応の『EX工法』と、大中口径対応の『ダンビー工法』のデモ展示が行われていました。実物によるデモ

展示を行われている数少ない展示ブースであったため、来場者が立ち止まって見学をされていました。

「ダンビー工法」では、予め既設管きょの内面上部にスパーサーを設置し、その後帯状部材のストリップを巻き立てて、隣り合うストリップ間をSFジョイナーでかん合製管して連続した管体を形成します。

施工機材も簡単なため、手際よく、実際の工事もこのようにスムーズに進むのではないかと思います。

(公社)日本下水道協会認定の製品規格(I類資器材)を取得した工法「EX工法」が展示され、マンホールを見立てた穴に投入する模型が飾られていて、熱をかけ温度が上がると柔らかくマンホールにスムーズに入っていくと、触った時の固さとのギャップが面白い工法でした。

(編集委員/橋本)